



民泊サービスが許可されます

H30年6月～



そもそも民泊とは？

個人宅やその一部、マンションの空き室などを宿泊用に有料で提供すること。海外では早くから民泊ビジネスとして普及しています。

民泊の必要性

2020年の東京オリンピックを控え観光業が盛り上がりを見せ海外から多くの訪日外国人観光客が押し寄せるようになりました。現在のホテルや旅館では需要に追いつくことが出来ず、民泊サービスを活用せざるを得なくなりました。

福岡市の現況

福岡市は観光業にも力を入れており、大型クルーズ客船の寄港数が国内最多、年々外国人観光客は増えています。平成29年は年間300万人近くの外国人観光客が本市から入国したそうです。恒常的な宿泊施設の不足もあり把握しているだけでも2千件近くの不法民泊が横行しているとのこと。不法民泊は博多区や中央区の商業地域だけではなく、早良区の住宅地にも進出しだし、地域住民から不安の声が聞かれるようになりました。

民泊の問題点

入れ替わり立ち代わり外国人が入り込むことから、犯罪や事故に巻き込まれる恐れはないか、ゴミ出しや公共施設の利用等トラブルが起きないか、また、火災や事故などでの安全性が保たれているかなど地域住民の不安は増えています。

「住宅宿泊事業法」(民泊法)の問題点

「住宅宿泊事業法」は観光客の宿泊施設として民泊を促進することが優先され地域住民とのトラブル防止について配慮が欠けているように思われる。市民の安全・安心の住環境を保つために住宅街での民泊事業は認可しないなどの配慮も必要ではないかと思えます。そのためには地域に即した民泊サービスを促進するために各都市の事情に合った民泊条例を検討すべきだと思います。

「住宅宿泊事業法」(民泊法)の概要

民泊サービスにはルール作りが必要です。そこで、「住宅宿泊事業法」(民泊法)が今年6月に施行されることになりました。これは民泊事業者、管理者、仲介業者とも県に対して届け出が必要になり、県知事が指導監督することになります。



市民の足、バス交通の課題について

● 都心部は交通渋滞

福岡市を訪れる方々は都心部のバスの多さに驚かれます。天神や博多駅周辺では東西南北に数珠つなぎになっている光景をよく目にします。これが都心部の慢性的な交通渋滞の原因ともなっています。現在のバスの台数を減らすためにBRT(連接バス)の試験運行が行われていますが渋滞対策には程遠いようにも思われます。都心部の交通体系の抜本的な見直しが必要と考えます。

● 郊外は交通不便地

郊外においては、高齢化が進展し公共交通の必要性が増すなか不採算路線の休廃止が相次ぎ、交通弱者と言われる障がい者や子ども・高齢者の通勤・通学・通院・買い物など日常生活に支障をきたすようになり生活交通の確保が大きな課題となっています。高度経済成長期に開発された住宅地でも高齢化が顕著となり丘陵地など坂道が多い地域でも同様です。本市では公共交通不便地や空白地に対しこれまで市内あちこちで生活交通の確保の取組がなされてきました。

● 早良区南部の対策

早良区内では南部の板屋地区では乗合タクシーの運行、脇山支線の椎原線や曲淵線は平成21年から市の助成金でバスの運行を継続していましたが平成30年春から路線の見直しと共に一部でデマンド交通(予約型乗合タクシー)が導入されます。



現在、本市としても生活交通の取組は地域、交通事業者及び市が協働して、検討が進められてきましたが、引続き、生活交通条例に基づく、「休廃止対策」「不便地対策」「生活交通確保支援」など、地域の声を聞きながら課題を把握し総合的に生活交通の確保をし、活力ある地域社会を実現しなければならないと考えます。

平成29年7月 集中豪雨の被災地へ 福岡市からも強力支援



多くの爪痕が残る山々

九州北部地域7月5日～6日の総降水量は500ミリを超えました。例年の7月1ヵ月の降水量を超え、朝倉市や日田市で24時間降水量が観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となりました。12月末に行方不明者の遺体が久留米市河川敷で発見され、この豪雨での死者は39人、不明2人と甚大な被害をもたらしました。

福岡市では直後から消防局、水道局の緊急車両、ヘリコプター、給水車等の車両と共に職員を派遣し調査、救助、連絡等の支援を行いました。また、ボランティアバスを運行、多くのボランティアも現地へ赴きました。住宅の提供や土木技術職員の長期派遣等支援を継続中です。



被害の大きい朝倉市松末小学校周辺

自民党市議団もボランティア参加

大量の土砂で校舎が埋もれてしまった松末小学校は閉校せざるを得ないとのことでした。せめて、卒業式と閉校式を体育館でさせてあげたいと地元青年会議所が中心となって改修工事が行われています。それには先ず体育館を埋め尽くした土砂を取り除くことが必要でした。私たちは重機で作業ができない更衣室やトイレの土砂の掻き出しをしました。スコップの先の土砂から笑顔で写った子どもたちの写真が何百枚も出てきたときは、しばらくスコップを動かすことができませんでした。自然の惨さを感じさせられました。



松末小学校体育館内

福岡市総合体育館オープン

福岡県庁横にある市民体育館は老朽化のためアイランドシティ内に福岡市総合体育館として生まれ変わります。新しい総合体育館は4階建て。メインアリーナだけを見ても市民体育館の2倍以上、バレーボールだと4面、一般の卓球だと48面もとれる広さですから驚きです。観客席も約1.5倍の5000席。ほかにサブアリーナ、武道場、弓道場、多目的室など。熱戦を繰り広げるアスリートたちの熱い息づかいが聞こえてきそうです。



福岡市総合体育館完成予想図

福岡市民会館建て替え

中央区須崎公園横の市民会館は長く市民の文化・芸術活動の拠点となり、多くの市民から親しまれていましたが55年を経過し老朽化が進んだことから建て替えられることになりました。新市民会館は県立美術館の南側に総事業費200億円で建設予定。大ホールの他、演劇に適した中ホール、小規模交流ホールなどを整備する予定。2023年の開館を目指しています。



現在の福岡市民会館